

## 陸のかけ橋フナクヤでふるさとづくり (平成27年度認定)



石垣市の北東に位置する伊原間半島には、伊原間、明石、平久保などの複数の集落がある。移民から成る集落であったこともあり、集落同士の交流は希薄であった。そこで、地域活性化と集落内の交流を兼ねて、北部漁友会が中心となり、平成9年度から「海神祭」を開催するようになった。その「海神祭」のメインイベントが「フナクヤハーリー」である。「フナクヤ(舟越屋)」の由来は、漁業者が西風が吹けば東に、東風が吹けば西で漁をするため、舟を担いで陸を移動していたことによる。このフナクヤの風習にならい、フナクヤハーリーは参加者が舟をかついで会場まで移動することで開始される。

海神祭開始当初は北部漁友会メンバー10人ほどで祭りを行ったが、平成27年度に実施した第18回海神祭では、島内外から約2000人の参加者が集い、体験ハーリーや祝賀会が盛大に行われた。体験ハーリーでは、地元小学校の先生対生徒による対決や学校PTA対抗レースなど集落の威信をかけた対決が行われる一方、地元介護施設の入所者によるハーリーなど老若男女問わず気軽にハーリーを体験することができる。更に、地元小中学校からの依頼により、北部漁友会のメンバーが講師として学校に出向き、体験ハーリー教室などを開催しているほか、漁港清掃なども行っている。

このように北部漁友会は、地域活性化や地域内外の交流促進に寄与しているため、「沖縄、ふるさと百選」交流部門に認定された。



舟を担いで陸を渡り(フナクヤ)  
フナクヤハーリー開始



御願ハーリー



ハーリー優勝旗



児童生徒も舟をかつぐ



体験ハーリー



海神祭来場者に  
無料の魚汁でおもてなし